

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

02.4.2004

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日
Date of Application: 2003年 4月 4日

出願番号
Application Number: 特願2003-102156
[ST. 10/C]: [JP2003-102156]

出願人
Applicant(s): キヤノン株式会社

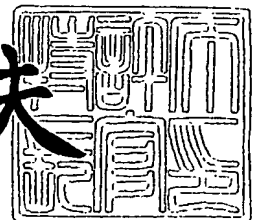
RECEIVED	
27 MAY 2004	
WIPO	PCT

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2004年 5月14日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今井康夫



出証番号 出証特2004-3040117

【書類名】 特許願

【整理番号】 252219

【提出日】 平成15年 4月 4日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 1/00

【発明の名称】 画像読取装置、パーソナライズド方法、プログラムおよび記憶媒体

【請求項の数】 22

【発明者】

【住所又は居所】 東京都大田区下丸子 3 丁目 3 0 番 2 号 キヤノン株式会社内

【氏名】 門脇 俊浩

【特許出願人】

【識別番号】 000001007

【氏名又は名称】 キヤノン株式会社

【代表者】 御手洗 富士夫

【代理人】

【識別番号】 100081880

【弁理士】

【氏名又は名称】 渡部 敏彦

【電話番号】 03(3580)8464

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 007065

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 9703713

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 画像読取装置、パーソナライズド方法、プログラムおよび記憶媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 原稿画像を読み取り、その画像データを出力する画像読取手段と、ネットワークを介して前記画像読取手段から出力された画像データに対するサービスを提供する外部サービスと接続するための接続手段とを備える画像読取装置であって、

前記外部サービスを操作者が利用するためにパーソナライズするためのパーソナライズドサービス情報を取得するパーソナライズドサービス情報取得手段と、

前記取得されたパーソナライズドサービス情報に基づいて前記操作者向けに設定画面、設定手順、設定内容をパーソナライズするためのパーソナライズ手段と、

前記ネットワークを介して、前記操作者向けに前記パーソナライズ手段によってパーソナライズされた内容に基づく各種設定を前記画像データとともに送信する送信手段と

を有することを特徴とする画像読取装置。

【請求項 2】 前記パーソナライズドサービス情報取得手段は、操作者識別情報および該操作者に対応するパーソナライズドサービス情報が記憶されている着脱可能な記憶媒体の読取手段と、前記記憶媒体に記憶されている操作者識別情報に基づいて操作者の識別を行う識別手段とを含むことを特徴とする請求項 1 記載の画像読取装置。

【請求項 3】 前記パーソナライズドサービス情報取得手段は、操作者識別情報および該操作者に対応するパーソナライズドサービス情報が記憶されている無線通信可能な記憶媒体との無線通信手段と、前記記憶媒体に記憶されている操作者識別情報に基づいて操作者の識別を行う識別手段とを含むことを特徴とする請求項 1 記載の画像読取装置。

【請求項 4】 前記ネットワーク上には、操作者識別情報毎に対応付けてパーソナライズドサービス情報を保持する外部サーバが収容され、前記パーソナラ

イズドサービス情報取得手段は、前記ネットワークを介して操作者識別情報を送信し、該送信された操作者識別情報に対応するパーソナライズドサービス情報を前記外部サーバから取得することを特徴とする請求項1記載の画像読取装置。

【請求項5】 前記ネットワーク上には、操作者識別情報および装置識別情報毎に対応付けてパーソナライズドサービス情報を保持する外部サーバが収容され、前記パーソナライズドサービス情報取得手段は、前記ネットワークを介して操作者識別情報および装置識別情報を送信し、該送信された操作者識別情報および装置識別情報に対応するパーソナライズドサービス情報を前記外部サーバから取得することを特徴とする請求項1記載の画像読取装置。

【請求項6】 前記複数の外部サービスはインターネット上に存在し、前記外部サーバはイントラネット上に存在することを特徴とする請求項4または5記載の画像読取装置。

【請求項7】 前記パーソナライズドサービス情報には、操作者が使用するサービスの識別情報と、該使用されるサービスにおける各種設定の初期値とが含まれていることを特徴とする請求項1ないし6のいずれか1つに記載の画像読取装置。

【請求項8】 前記パーソナライズドサービス情報には、操作者が使用するサービスの識別情報と、該使用されるサービスにおける操作者が設定可能な設定値とが含まれていることを特徴とする請求項1ないし6のいずれか1つに記載の画像読取装置。

【請求項9】 前記パーソナライズドサービス情報には、操作者が使用するサービスの識別情報と、該使用されるサービスにおける使用禁止設定値とが含まれていることを特徴とする請求項1ないし6のいずれか1つに記載の画像読取装置。

【請求項10】 前記パーソナライズドサービス情報には、操作者が使用するサービスの識別情報と、該使用されるサービスにおける操作者が使用可能な設定項目とが含まれていることを特徴とする請求項1ないし6のいずれか1つに記載の画像読取装置。

【請求項11】 前記パーソナライズドサービス情報には、操作者が使用する

るサービスの識別情報と、該使用されるサービスにおける使用禁止設定項目とが含まれていることを特徴とする請求項 1 ないし 6 のいずれか 1 つに記載の画像読取装置。

【請求項 12】 前記パーソナライズ手段により、使用するサービスをパーソナライズしない場合は、前記外部サービスを使用禁止にすることを特徴とする請求項 1 ないし 11 記載の画像読取装置。

【請求項 13】 前記外部サービスは、前記送信された画像データのプリントおよび製本サービスであり、該サービスに対する各種設定は、プリント体裁および製本体裁に関する設定を含むことを特徴とする請求項 1 ないし 12 のいずれか 1 つに記載の画像読取装置。

【請求項 14】 前記外部サービスは、前記送信された画像データのプリントおよび製本サービスであり、該サービスに対する各種設定は、プリント物の配送先に関する設定を含むことを特徴とする請求項 1 ないし 12 のいずれか 1 つに記載の画像読取装置。

【請求項 15】 前記パーソナライズドサービス情報には、前記配送先として、操作者自身への配送先情報が含まれていることを特徴とする請求項 14 記載の画像読取装置。

【請求項 16】 前記パーソナライズドサービス情報には、サービス費用の請求先として、操作者自身を請求先とする情報が含まれていることを特徴とする請求項 1 ないし 15 のいずれか 1 つに記載の画像読取装置。

【請求項 17】 前記パーソナライズドサービス情報には、サービスを使用する場合のユーザ認証に使用する認証データの一部が含まれていることを特徴とする請求項 1 ないし 16 のいずれか 1 つに記載の画像読取装置。

【請求項 18】 前記パーソナライズドサービス情報取得手段は、複数のパーソナライズドサービス情報を取得し、前記パーソナライズ手段は、前記取得された複数のパーソナライズドサービス情報に基づいて前記操作者向けにパーソナライズされたサービスのうち、所望のサービスを選択する選択手段を含むことを特徴とする請求項 1 ないし 17 のいずれか 1 つに記載の画像読取装置。

【請求項 19】 前記パーソナライズ手段により、前記取得されたパーソナ

ライズドサービス情報に基づいて前記操作者向けにパーソナライズされたサービスに対する各種設定を、新規のパーソナライズドサービス情報として、前記パーソナライズドサービス情報の取得元に追加する追加手段を有することを特徴とする実施態様 18 記載の画像読取装置。

【請求項 20】 原稿画像を読み取り、その画像データを出力する画像読取手段と、ネットワークを介して前記画像読取手段から出力された画像データに対するサービスを提供する外部サービスと接続するための接続手段とを備える画像読取装置のパーソナライズド方法であって、

前記外部サービスを操作者が利用するためにパーソナライズするためのパーソナライズドサービス情報を取得するパーソナライズドサービス情報取得工程と、

前記取得されたパーソナライズドサービス情報に基づいて前記操作者向けに設定画面、設定手順、設定内容をパーソナライズするためのパーソナライズ工程と、

前記ネットワークを介して、前記操作者向けに前記パーソナライズ工程でパーソナライズされた内容に基づく各種設定を前記画像データとともに送信する送信工程と

を有することを特徴とするパーソナライズド方法。

【請求項 21】 原稿画像を読み取り、その画像データを出力する画像読取手段と、ネットワークを介して前記画像読取手段から出力された画像データに対するサービスを提供する外部サービスと接続するための接続手段とを備える画像読取装置上で実行されるプログラムであって、

前記外部サービスを操作者が利用するためにパーソナライズするためのパーソナライズドサービス情報を取得するパーソナライズドサービス情報取得モジュールと、

前記取得されたパーソナライズドサービス情報に基づいて前記操作者向けに設定画面、設定手順、設定内容をパーソナライズするためのパーソナライズモジュールと、

前記ネットワークを介して、前記操作者向けに前記パーソナライズモジュールによってパーソナライズされた内容に基づく各種設定を前記画像データとともに

送信する送信モジュールと

を有することを特徴とするプログラム。

【請求項 2 2】 請求項 2 1 記載のプログラムをコンピュータ読取り可能に格納したことを特徴とする記憶媒体。

【発明の詳細な説明】

【 0 0 0 1 】

【発明の属する技術分野】

本発明は、原稿画像を読み取り、その画像データを出力する画像読取手段と、ネットワークを介して前記画像読取手段から出力された画像データに対するサービスを提供する外部サービスと接続するための接続手段とを備える画像読取装置、そのパーソナライズド方法、プログラムおよび記憶媒体に関する。

【 0 0 0 2 】

【従来の技術】

従来、ユーザがインターネット上のプリントサービスなどを利用する場合、ユーザは、P C（パーソナルコンピュータ）などから、W e b ブラウザを用いて、インターネットのW e b サーバとして公開されたサービスに対してアクセスしている。このとき、プリントしたい原稿が電子データの場合は、P C から電子データをそのままW e b サーバに送信すればよいが、原稿が紙原稿の場合は、画像読取装置で紙原稿を読み取り、読み取った電子データをユーザのP C まで移動し、その後、ユーザのP C からW e b サーバにアクセスして、読み取った電子データを送付する必要がある。

【 0 0 0 3 】

【発明が解決しようとしている課題】

しかしながら、上述した従来の方法では、画像読取装置で紙原稿を読み取り、その読み取りにより得られた画像データをユーザのP C まで移動させるという操作、その画像データをP C からW e b サーバに送信するという操作などの少なくとも 2 つの操作が必要であり、操作に手間が掛かる。

【 0 0 0 4 】

また、ネットワーク上の画像読取装置とP C とがネットワークを介して接続さ

れている場合、画像データがネットワーク上を移動するために、ネットワークに負荷を掛け、また、送信時間およびユーザの待ち時間が長くなるという問題がある。

【0005】

これらの問題を解決するために、画像読取装置から、読み取られた画像データをインターネット上のサービスに対して直接送信する方法が考えられる。しかしながら、この方法においても、以下のような問題がある。

【0006】

画像読取装置が複数のユーザにより共有される場合、この画像読取装置に設けられている操作画面が複数のユーザに共通の操作画面となるが、この操作画面を用いた画像データ送信のための操作性は、ユーザのPCにおける操作性に比して劣る。具体的には、画像読取装置の操作画面はPCの操作画面に比して小さく、また、画像読取装置の操作部には、PCなどように、キーボードやマウスなどが設けられていないので、画像読取装置の操作部を用いてインターネット上の各サービスに関する様々な設定を行う際の操作性は、PC上で設定を行う際の操作性に比して劣ることになる。

【0007】

本発明の目的は、読み取られた画像データをインターネット上のサービスに対して直接送信する際に必要な各種設定に関する操作性を向上させることができる画像読取装置、パーソナライズド方法、プログラムおよび記憶媒体を提供することにある。

【0008】

【課題を解決するための手段】

本発明は、上記目的を達成するため、原稿画像を読み取り、その画像データを出力する画像読取手段と、ネットワークを介して前記画像読取手段から出力された画像データに対するサービスを提供する外部サービスと接続するための接続手段とを備える画像読取装置であって、前記外部サービスを操作者が利用するためにパーソナライズするためのパーソナライズドサービス情報を取得するパーソナライズドサービス情報取得手段と、前記取得されたパーソナライズドサービス情

報に基づいて前記操作者向けに設定画面、設定手順、設定内容をパーソナライズするためのパーソナライズ手段と、前記ネットワークを介して、前記操作者向けに前記パーソナライズ手段によってパーソナライズされた内容に基づく各種設定を前記画像データとともに送信する送信手段とを有することを特徴とする。

【0009】

また、本発明は、上記目的を達成するため、原稿画像を読み取り、その画像データを出力する画像読取手段と、ネットワークを介して前記画像読取手段から出力された画像データに対するサービスを提供する外部サービスと接続するための接続手段とを備える画像読取装置のパーソナライズド方法であって、前記外部サービスを操作者が利用するためにパーソナライズするためのパーソナライズドサービス情報を取得するパーソナライズドサービス情報取得工程と、前記取得されたパーソナライズドサービス情報に基づいて前記操作者向けに設定画面、設定手順、設定内容をパーソナライズするためのパーソナライズ工程と、前記ネットワークを介して、前記操作者向けに前記パーソナライズ工程でパーソナライズされた内容に基づく各種設定を前記画像データとともに送信する送信工程とを有することを特徴とする。

【0010】

また、本発明は、上記目的を達成するため、原稿画像を読み取り、その画像データを出力する画像読取手段と、ネットワークを介して前記画像読取手段から出力された画像データに対するサービスを提供する外部サービスと接続するための接続手段とを備える画像読取装置上で実行されるプログラムであって、前記外部サービスを操作者が利用するためにパーソナライズするためのパーソナライズドサービス情報を取得するパーソナライズドサービス情報取得モジュールと、前記取得されたパーソナライズドサービス情報に基づいて前記操作者向けに設定画面、設定手順、設定内容をパーソナライズするためのパーソナライズモジュールと、前記ネットワークを介して、前記操作者向けに前記パーソナライズモジュールによってパーソナライズされた内容に基づく各種設定を前記画像データとともに送信する送信モジュールとを有することを特徴とする。

【0011】

また、本発明は、上記目的を達成するため、請求項 21 記載のプログラムをコンピュータ読取り可能に格納したことを特徴とする。

【0012】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施形態について図面を参照しながら説明する。

【0013】

(第 1 実施形態)

図 1 は本発明の第 1 実施形態に係る画像読取装置を含む画像読取システムの構成を示すブロック図である。

【0014】

画像読取システムは、図 1 に示すように、画像読取装置 1 を含み、本画像読取システムにおいては、複数のユーザが画像読取装置 1 からインターネット 13 を介して様々なサービス 14～18 を提供するサイトにアクセスし、これらのサービス 14～18 を享受することが可能である。

【0015】

ここで、サービス 14 は、プリント&製本サービス A であり、画像読取装置 1 で読み取られた画像データや PC (図示せず) で作成された文書データなどを受け取ってプリントし、その印刷物に対してくるみ製本などの製本作業を施し、指示された場所に宅配サービスなどで配送するサービスなどを行うものである。サービス 15 は、サービス 14 を提供する業者とは別の業者が提供するプリント&製本サービス B であり、そのサービス内容は、基本的にはサービス 14 の内容と同等である。ただし、サービス 15 は、値段、製本サービスのラインアップ、納期などの点でサービス 14 とは異なる。サービス 16 は、消耗品発注サービス C であり、例えば、トナーやコピー用紙を発注するためのサービスである。サービス 17 は、コンテンツ配信サービス D であり、文書コンテンツを保持し、要望により配信するサービスである。サービス 18 は、文書保管サービス E であり、画像読取装置 1 で読み取られた画像データや PC で作成された文書データなどを受け取り、保管するサービスである。

【0016】

画像読取装置 1 は、紙原稿を読み取るための画像読取部 2 と、画像データを格納するための画像メモリ 3 と、画像データに基づいて画像形成を行うための画像形成部 4 と、操作部 5 と、制御部 6 と、ネットワークインタフェース (N/W-I/F) 7 と、IC カードリーダ/ライタ部 8 と、プログラム、文書データ、画像データなどの各種データを格納するための HD (ハードディスク) 12 とを備える。

【0017】

操作部 5 は、操作者が様々な操作指示を行うためのものであり、コピー時の各種設定、画像読取時の各種設定の他に、インターネット 13 上の各種サービスを受ける場合の各種設定を行うことが可能である。また、操作部 5 には、上記操作指示を入力するためのタッチパネル付き液晶表示部 (図 2 を参照) が設けられている。制御部 6 は、HD 12 に格納されているプログラムに基づいて装置全体を制御するとともに、操作部 5 から設定された内容に基づいて各種処理を実行する。IC カードリーダ/ライタ部 8 は、着脱可能な記憶媒体である IC カード 9 内のデータを読み書きするためのものである。IC カード 9 内には、その IC カードの所有者を特定するための操作者情報 10 と、その操作者にパーソナライズされたサービス一覧情報 11 とが保存されている。

【0018】

画像読取装置 1 は、画像データを、インターネット 13 上の対応するサービスを提供するサイトへ直接送信する画像データ送信機能、プリント機能およびコピー機能を有する。

【0019】

具体的には、上記画像データ送信機能においては、画像読取部 2 により紙原稿 (図示せず) が読み取られ、これにより得られた画像データが画像メモリ 3 に一旦書き込まれた後に、制御部 6、ネットワークインタフェース 7、ネットワークケーブル 19 およびインターネット 13 を経由して、インターネット 13 上の選択されたサービスに送信される。これにより、選択されたサービスにより、上記画像データに対するサービスを受けることができる。

【0020】

また、上記コピー機能においては、画像読取部 2 で紙原稿が読み取られ、これ

により得られた画像データが画像メモリ 3 に一旦書き込まれた後に、画像形成部 4 に送られる。そして、画像形成部 4 において、コピー画像が形成される。

【0021】

さらに、上記プリント機能においては、インターネット 13 上のサービス 17 (コンテンツ配信サービス D) から配信された文書データや画像データがインターネット 13、ネットワークケーブル 19、ネットワークインタフェース 7 および制御部 6 を経由して受信され、受信された画像は、必要に応じて展開処理が施された後に、画像データとして画像メモリ 3 に書き込まれる。そして、画像メモリ 3 から画像データが読み出されて画像形成部 4 に送られ、画像形成部 4 において画像形成が行われる。

【0022】

次に、IC カードリーダー/ライタ部 8 に IC カード 9 が装着された場合の操作画面について図 2 を参照しながら説明する。図 2 は IC カードリーダー/ライタ部 8 に IC カード 9 が装着された場合に、操作部 5 内のタッチパネル付き液晶表示部 21 に表示される IC カード関連の操作画面の一例を示す図である。

【0023】

IC カードリーダー/ライタ部 8 に IC カード 9 が装着されると、図 2 に示すように、操作部 5 に設けられているタッチパネル付き液晶表示部 21 に、パスワードの入力欄を含むメッセージ 22 と、各種操作キー 23, 24, 25 とが表示される。ここでは、メッセージ 22 として、個人別カードが装着されている旨が表示されるとともに、操作者がその IC カードの正当な所有者か否かを確認するためのパスワードの入力欄が表示される例が示されている。この入力欄に正しいパスワードが入力されると、現在装着されている IC カード 9 が正当な所有者のものであると認証され、操作者による操作キー 23, 24, 25 の操作が受け付け可能な状態になる。

【0024】

操作キー 23 は、パーソナライズドサービスキーであり、このキー 23 が押されると、操作画面が図 3 または図 4 に示すような各操作者別のサービス一覧画面に遷移する。操作キー 24 は、汎用サービスキーであり、このキー 24 が押され

ると、操作画面が全ての操作者に共通のサービス一覧画面（図示せず）に遷移する。この全ての操作者に共通のサービスとは、汎用サービスと呼ばれるものであり、全ての操作者が利用可能なサービスである。また、本実施形態においては、ICカード9が装着されていない場合でも、操作部5に設けられているサービスエントリキー（図示せず）を押下することによって、図2と同様な操作画面を表示させることが可能であり、この画面上で汎用サービスキー24に相当するキーを押せば、同様に、操作者に共通のサービス（汎用サービス）一覧画面（図示せず）が表示されることになる。操作キー34は、終了キーであり、このキー34が押されると、この操作画面が終了される。

【0025】

汎用サービスは、全ての操作者に共通なものであるもので、ある操作者にとっては使い難いものである場合があり、またはある操作者にとっては必要でないものである場合がある。また、インターネット13上のサービスはその数に上限がなく、このサービスとしては、PC向けのサービス、画像読取装置向けのサービス、プリンタ向けのサービスなど、様々なサービスが存在可能であり、それらのサービスの中から自分が使用したいサービスを毎回検索して探すには、非常に手間が掛かる。

【0026】

次に、パーソナライズドキー23が押された場合に表示される操作者別のサービス一覧画面について図3および図4を参照しながら説明する。図3は23456 kadowakiというユーザIDを有する操作者のサービス一覧画面例を示す図、図4は23457 TanakaというユーザIDを有する操作者のサービス一覧画面例を示す図である。

【0027】

23456 kadowakiというユーザIDを有する操作者が所有するICカードが装着された状態で図2に示す画面上でパーソナライズドサービスキー23が押されると、図3に示すように、23456 kadowaki用にパーソナライズされたサービス一覧画面がタッチパネル付き液晶表示部21に表示される。この画面においては、個別に特定された6つのサービス（以下、パーソナライズドサービスという）にそ

れぞれ割り当てられているパーソナライズドサービスキー 25～30が表示される。

【0028】

ここで、パーソナライズドサービスキー 25 は、プリント&製本サービス A14 に割り当てられたキーであり、このキーが押下されると、プリント&製本サービス A14（当該サービスを提供するサイト）への接続が行われ、くるみ製本のサービスが受けられる。このくるみ製本のサービスは、画像読取部 2 で紙原稿から読み取られた画像データをプリント出力し、このプリント出力に対して A4 サイズのくるみ製本を行い、このくるみ製本物を、ユーザ ID23456 kadowaki を有する操作者により指定された住所まで配送するというサービスである。一般に、ステープル綴じなどの後処理は、オフィスにある MFP（Multi Function Peripheral）に設けられているステープル装置を使用して実施することも可能であるが、くるみ製本などの製本作業には、糊付けなどを行う専用のバイнда機、くるとんだ後に用紙束の端を断裁するための断裁機などが必要であり、くるみ製本などの製本作業をオフィスで実施することは困難である。よって、くるみ製本などの製本作業が必要な場合には、パーソナライズドサービスキー 25 に割り当てられているパーソナライズドサービスが利用される。

【0029】

パーソナライズドサービスキー 26 は、プリント&製本サービス A14 に割り当てられたキーであり、このキーを押下することにより、画像読取部 2 で紙原稿から読み取られた画像データをプリント出力し、このプリント出力に対して A4 サイズの中綴じ製本を行い、この中綴じ製本物を部長会のメンバーに配送するというサービスを受けることができる。最近の MFP の中には、中綴じ機能を有する装置もあるが、中綴じ処理可能なページ数が例えば 16 ページ程度に制限されている場合が多い。そこで、例えば 32 ページ程度の文書の中綴じ製本を行いたい場合には、パーソナライズドサービスキー 26 に割り当てられているパーソナライズドサービスが利用される。

【0030】

パーソナライズドサービスキー 27 は、プリント&製本サービス B15 に割り

当てられたキーであり、このキーを押下することにより、画像読取部 2 で紙原稿から読み取られた画像データを A 1 サイズのポスターとして出力するポスター印刷を行い、指定された販売店に配送するというサービスを受けることができる。このパーソナライズドサービスは、オフィスに A 1 サイズの印刷機がない場合や、印刷後にラミネート加工などの特殊加工をしたい場合などに、利用されるものである。

【0031】

パーソナライズドサービスキー 28, 29 にそれぞれ割り当てられたパーソナライズドサービスは、画像読取機能とは関係がないサービスであり、各パーソナライズドサービスキー 28, 29 が押下されると、トナーやコピー用紙を発注するための消耗品注文サービス C 16 への接続が行われる。

【0032】

パーソナライズドサービスキー 30 に割り当てられたパーソナライズドサービスは、印刷機能と関係するサービスであり、パーソナライズドサービスキー 30 が押下されると、当日のプリンタ業界記事のプルプリントが発注するためのコンテンツ配信サービス D 17 への接続が行われる。

【0033】

23457 Tanaka というユーザ ID を有する操作者の IC カードが装着された状態で、図 2 に示す操作画面上でパーソナライズドサービスキー 23 が押下された場合、図 4 に示すように、23457 Tanaka 用にパーソナライズされたサービス一覧画面がタッチパネル付き液晶表示部 21 に表示される。この画面においては、3つのパーソナライズドサービスにそれぞれ割り当てられているパーソナライズドサービスキー 31～33 が表示される。

【0034】

例えば、パーソナライズドサービスキー 31 は、プリント&製本サービス B 15 を利用するためのキーであり、このキーを押下することにより、画像読取部 2 で紙原稿から読み取られた画像データに基づいて LTR サイズ（レターサイズ）の片綴じ（ステープル）製本を行い、この製本物を 23457 Tanaka というユーザ ID を有する操作者により指定された住所まで配送するというサービスを受けること

ができる。一般に、日本ではLTRサイズ用の紙を常備していない場合が多く、上記サービスはLTRサイズのコピーを行う場合などに利用される。このように、23456 kadowakiというユーザIDを有する操作者と、23457 TanakaというユーザIDを有する操作者とでは、同じプリント&製本サービスBを使用する場合でも、そのサービスにおいて利用する詳細サービスの内容が違う場合がある。

【0035】

パーソナライズドサービスキー32は、ポスター印刷のサービスを利用するためのキーである。パーソナライズドサービスキー33が押下されると、コンテンツ配信サービスD17への接続が行われ、一週間分のPC業界記事のプルプリントの配信を受けることができる。

【0036】

このように、ユーザ毎に、自分の業務内容や、業務フローや、好みに応じて、使用するサービスを選択し、さらにそのサービスにおいてよく使う設定をプリセットしたパーソナライズドサービスの一覧をサービス一覧画面に表示することにより、画像読取装置1からインターネット13上の各サービスを利用する際の操作環境を使い易いものとすることができる。

【0037】

次に、上記パーソナライズドサービスキーが押下された場合に表示される操作画面について図5を参照しながら説明する。図5は図3のユーザID23456 kadowaki向けサービス一覧画面において、パーソナライズドサービスキー25を押下した場合の操作画面例を示す図である。

【0038】

例えば図3のユーザID23456 kadowaki向けサービス一覧画面において、パーソナライズドサービスキー25が押下されると、図5に示すよう操作画面がタッチパネル付き液晶表示部21に表示される。この画面上には複数の表示領域41～44が設けられており、表示領域41には、パーソナライズドサービスの名称、User Name、サービスの各設定項目の変更方法の案内が表示される。そして、表示領域42には、サービスの各設定項目の名称が表示され、表示領域43には、それらの項目に対する設定値が表示される。これらの設定項目とその設定値の

初期値とは、ICカード9内のサービス一覧情報11から読み出されたものであり、図5の操作画面に表示される。図5の操作画面例においては、接続サービスの初期値は、プリント&製本サービスA14であり、仕上げサイズの初期値はA4であり、部数の初期値は1部である。片面/両面の初期値は両面であり、カラー/白黒の初期値はカラーであり、製本の初期値はくるみ製本である。さらに配送先の初期値は操作者自身宛であり、このサービスを使用するときの費用負担元、すなわち費用の請求先の初期値は操作者自身の所属部門であり、また発注者名の初期値も操作者自身とされている。

【0039】

表示領域44には、各設定項目の値を変更するためのキーが表示される。上下キー（図示せず）で変更対象を選択すると、変更対象になったキーは反転し、その状態で左右キー（図示せず）を押すと、各設定項目の他の設定値が表示領域43に表示される。本実施形態では、図5の操作画面表示時点で、画像読取装置1がプリント&製本サービスA14に接続され、このプリント&製本サービスA14に対し、各設定項目の他の設定値が問い合わせられる。すなわち、他の設定値候補を入手する方式が採用されている。

【0040】

必要に応じて各設定項目の設定値が変更された後に発注キー46が押下されると、紙原稿が読み取られ、その画像データと指定されたサービスにおける各設定値とがインターネット上の指定されたサービスを提供するサイトに送信される。これにより、操作者に提供されるサービス内容が確定される。

【0041】

このように、その操作者の利用頻度が高いサービスと、そのサービスを利用する際の設定すべき項目の設定値とを、パーソナライズドサービスに初期値として保持することにより、その初期値の変更が必要なければ、図5の操作画面において、設定値を変更することなく、発注キー46を押すだけで発注が可能となる。

【0042】

また、必要に応じて各設定項目の設定値を変更した後、設定の保存キー45を押すと、画面が保存画面（図示せず）に遷移し、図5の画面上で設定された各設

定値群が新たなパーソナライズドサービスとしてサービス一覧情報に新規追加されるか、またはユーザ指示により既存のパーソナライズドサービスと置き換えられることになる。

【0043】

なお、本実施形態では、説明の簡単化のために、図5の操作画面をリスト方式の表示画面としているが、これに代えて、上記操作画面を、プリント&製本サービスA14を提供するWebサーバが提供するHTMLなどで記述されたWeb画面とし、それを用いて設定を行うようにしてもよい。その場合でも、各設定項目の初期値としては、ICカード9内の、サービス一覧情報11から読み出されたものが使用される。

【0044】

本実施形態のように、独自の操作画面にすることにより、設定可能な設定項目自体もパーソナライズ可能となるとともに、画像読取装置1にWebブラウザを搭載する必要がない。一方、Web画面で操作する場合には、設定項目自体のパーソナライズは困難であるものの、PCで操作する場合と同じ操作性を提供することができる。

【0045】

また、Web画面をHTMLなどで表示する代わりに、そのサービスで設定可能な項目と、その各項目で設定可能な設定値のリストをXMLデータなどの形式で、インターネットサービスから一括して入手し、それに基づいて、図5の操作画面を、画像読取装置1側で制御するように構成してもよい。この場合、設定を変える度に、設定可能設定値候補をWebサーバに問い合わせる必要がないという利点がある。

【0046】

また、そのXMLデータをICカード9に保持するように構成してもよい。このような構成にすることにより、図5の操作画面表示時点で、プリント&製本サービスA14のサイトにアクセスしなくても、ICカード9内のXMLデータを用いて、プリント&製本サービスA14における各設定を図5の操作画面上で設定可能になる。

【0047】

次に、ICカード9内に保存されている操作者別サービス一覧情報11の詳細について図6を参照しながら説明する。図6は図1のICカード9内に保存されている操作者別サービス一覧情報11の詳細内容を示す図である。

【0048】

例えば、ユーザID23456 Kadowakiを有する操作者のICカード9内に保存されている操作者別サービス一覧情報11には、図6に示すように、登録されているパーソナライズドサービスの数を示す登録サービス数「6」が保存され、そのルートには、各パーソナライズドサービス情報52, 53, 54, …などがリンクされている。パーソナライズドサービス情報52には、パーソナライズドサービスキー25に割り当てられているパーソナライズドサービスの設定項目の項目ID55、その設定項目の名称56、およびその設定項目の設定値の初期値57が含まれる。また、パーソナライズドサービス情報53, 54, …にも、同様に、対応するパーソナライズドサービスキーに割り当てられているパーソナライズドサービスの設定項目の項目ID、その設定項目の名称、およびその設定項目の設定値の初期値が含まれる。

【0049】

また、本実施形態においては、各パーソナライズドサービス情報52, 53, 54, …内には、UID/Password項目があり、UID/Password項目には、対応するサービスに接続する場合に使用されるユーザIDとパスワードが記載されている。例えば、パーソナライズドサービス情報52においては、サービスAに接続する場合に使用されるユーザIDとして23456 kadowaki、パスワードとしてxxxxが記載されている。一方、パーソナライズドサービス情報54においては、サービスBに接続する場合のユーザIDとして23456789、パスワードとしてyyyyyyが記載されている。ここでは、サービス毎にユーザIDやパスワードが異なるが、これはユーザIDやパスワードが各サービスに応じて決定されるためである。

【0050】

このように、本実施形態では、各サービスに接続する場合の認証情報がパーソナライズドサービス情報にそれぞれ保持され、それが各サービスに接続する場合

の認証時に使用されるように構成されている。これにより、ユーザが自身の IC カードを画像読取装置 1 に装着した際に、パスワード入力により当該ユーザが装着された IC カードの正当な所有者であるとの認証処理が行われると、各サービスへの接続時には、サービス毎のユーザ ID やパスワードを入力する必要がなく、サービスへの接続時に必要な操作に掛かる手間を軽減することができる。

【0051】

また、これに代えて、セキュリティをより向上させるために、サービスへの接続時に、対応するユーザ ID やパスワードを入力する方式を採用してもよい。また、各サービスへの接続時に、サービス毎のユーザ ID やパスワードを入力し、さらに、パーソナライズドサービス情報の中のユーザ ID やパスワードも送るよう構成してもよい。この構成の場合、IC カードを所有していないユーザが各サービスにアクセスすることを未然に防止することが可能になる。

【0052】

また、パーソナライズドサービス情報 53, 54 は、パーソナライズドサービスキー 26, 27 に対応するものである。

【0053】

なお、各パーソナライズドサービスにおいて、同じ設定項目については、同じ項目 ID を割り付けることにより、異なるサービス間で設定を流用し易くしている。例えば、パーソナライズドサービス 52 はサービス A に接続するものであり、パーソナライズドサービス 54 はサービス B に接続するものであって接続先は異なるが、『部数』という設定項目には同じ項目 ID である『3』を使用している。一方、『製本』などは、ポスター印刷には該当項目がない。

【0054】

また、各パーソナライズドサービス情報内には、そのパーソナライズドサービス名称が 1 行目に保持されていて、本実施形態においては、その名称が、図 3 のキー名称や、図 5 のパーソナライズドサービス名称として使用される。この名称は、本実施形態においては、所定画面（図示せず）において新規のパーソナライズドサービスが登録されるときに、操作者自身が命名するように構成されている。これに代えて、図 6 の各パーソナライズドサービスの代表的設定項目の設定値

に基づいて、画像読取装置 1 が自動的に名称を命名するようにしてもよい。前者は、任意の名前を付けられるという利点があり、後者は、名前を入力する手間が省けるという利点がある。

【0055】

次に、ICカード 9 内の操作者情報 10 について図 7 を参照しながら説明する。図 7 は IC カード 9 内の操作者情報 10 の構成を模式的に示す図である。

【0056】

操作者情報 10 には、図 7 に示すように、操作者がこの IC カード 9 の正当な所有者であるか否かを識別するためのカードパスワードが含まれており、このカードパスワードは図 2 のパスワード確認の際に使用される。また、操作者情報 10 には、この IC カード 9 を特定するための User ID が含まれている。また、操作者情報 10 には、配送先として、この IC カード 9 の所有者のオフィスの所在が、費用負担元として、この IC カード 9 の所有者が所属する組織コードが、発注者として、この IC カード 9 の所有者の名称がそれぞれ含まれている。これらの情報は、インターネットサービスを使用するにあたり、通常必要となる情報であり、また、操作者毎に異なるが、同じ操作者の場合には変化しない共通情報である。本実施形態において、操作者情報 10 に含まれているこれらの共通情報は、所定画面（図示せず）上で新たなパーソナライズドサービスを作成する場合に、各項目のデフォルト値として使用される。これにより、新たなパーソナライズドサービスを作成する場合に、入力量を軽減させることができる。

【0057】

次に、本画像読取装置 1 の制御について図 8 を参照しながら説明する。図 8 は図 1 の画像読取装置の制御の手順を示すフローチャートである。本図に示す手順は、制御部 6 により実行されるものである。

【0058】

画像読取装置 1 が起動されると、図 8 に示すように、制御部 6 は、まず、ステップ S101 において、IC カード 9 が IC カードリーダー/ライタ部 8 に装着されているか否かをチェックする。ここで、IC カード 9 が装着されていないならば、制御部 6 は、ステップ S102 において、他の処理を行い、そして、処理をス

トップ S 1 0 1 に戻す。

【0059】

これに対し、I C カード 9 が装着されている場合には、制御部 6 は、ステップ S 1 0 3 において、図 2 で説明した I C カード用の操作画面を表示し、当該操作画面上にユーザによりパスワードが入力されると、入力されたパスワードと、I C カード 9 内に保持されているカードパスワードとの照合を行う。この照合結果、操作者が I C カード 9 の正当な所有者であると確認された場合には、制御部 6 は、ステップ S 1 0 4 において、I C カード 9 に保持されている操作者別のサービス一覧情報に基づいて、ユーザ毎にパーソナライズされたサービス一覧画面（図 3 または図 4 に示す画面）を表示する。

【0060】

次いで、制御部 6 は、ステップ S 1 0 5 において、パーソナライズドサービスが一覧表示されている図 3 または図 4 の画面上での操作者によるサービス選択操作を受け付ける。続いて、制御部 6 は、ステップ S 1 0 6 において、操作者により選択されたサービスのパーソナライズされた項目設定画面（図 6 に示す）を表示し、必要に応じて、ユーザによる各設定値の変更を受け付ける。そして、制御部 6 は、ステップ S 1 0 7 において、操作者による指示が発注指示であるか設定の保存指示であるかを判別する。

【0061】

ここで、操作者の指示が設定の保存指示である場合、制御部 6 は、ステップ S 1 0 9 において、保存画面（図示せず）への切り替えを行い、保存指示時における操作部 5 で設定されている各設定値を新規のパーソナライズドサービスとしてサービス一覧情報に新規追加するかまたは操作者指示により既存のものと置き換える。そして、制御部 6 は、処理を上記ステップ S 1 0 7 に戻す。これに対し、上記ステップ S 1 0 7 において操作者による指示が発注指示であると判別された場合、制御部 6 は、ステップ S 1 0 8 において、画像読取部 2 で紙原稿を読み取り、その画像データと、上記ステップ S 1 0 6 で指定されたサービスにおける設定された各種設定値とを、インターネット 1 3 上の指定されたサービスに送信して発注を行う。そして、制御部 6 は、処理を上記ステップ S 1 0 1 に戻す。

【0062】

このように、本実施形態では、読み取られた画像データをインターネット上のサービスに対して直接送信する際に必要な各種設定に関する操作性を向上させることができる。

【0063】

(第2実施形態)

次に、本発明の第2実施形態について図9を参照しながら説明する。図9は本発明の第2実施形態に係る画像読取装置を含む画像読取システムの構成を示すブロック図である。

【0064】

上記第1実施形態においては、接触式のICカード9と接触式のICカードリーダー/ライタ部8が用いられている。この点、本実施形態においては、非接触式の無線方式のICカード62と無線方式のICカードリーダー/ライタ部61が用いられている。これ以外のブロックなどは、上記第1実施形態と同じ構成、機能を有し、同一のものには、同一の符号が付されている。

【0065】

第1実施形態のような接触方式は、無線方式に比して、コストが安く、また無線方式の場合に発生し得る混信がないという利点を有するが、無線方式の場合は、ICカードをICカードリーダー/ライタ部に装着することなく、ICカード62を、ICカードリーダー/ライタ部61の近傍に近づけるのみで、ICカード62に対する読み書きを行うことが可能になり、操作性が優れている。また、非接触式のためICカード62が壊れ難く、またICカード62を画像読取装置1に装着したまま取り忘れるということがない。

【0066】

また、本実施形態に用いられる無線方式としては、非接触で、操作者情報10とサービス一覧情報11とをやり取り可能なものであれば、どのような方式を用いてもよい。例えば、Bluetooth、IrDA（赤外線通信）などの無線通信方式が用いられる。

【0067】

(第3実施形態)

次に、本発明の第3実施形態について図10および図11を参照しながら説明する。図10は本発明の第3実施形態に係る画像読取装置を含む画像読取システムの構成を示すブロック図、図11は図10の画像読取装置の制御の手順を示すフローチャートである。本図に示す手順は、制御部6により実行されるものである。なお、本実施形態において、上記第1実施形態と同じ構成、機能を有するものには、同一の符号が付されており、それらの説明は省略する。

【0068】

上記第1実施形態においては、ICカード9から操作者別のサービス一覧情報が取得されるのに対し、本実施形態においては、イントラネット73上のパーソナライズサーバ74から操作者別かつ装置別のサービス一覧情報75が取得される。上記第1実施形態のようにICカード9から操作者別のサービス一覧情報を取得する方式の場合は、パーソナライズサーバが不要である。これに対し、本実施形態のように、パーソナライズサーバ74から操作者別かつ装置別のサービス一覧情報を取得する方式の場合は、サービス一覧情報のサイズがICカードの記憶サイズの制限を受けないという利点と、操作者別かつ装置別のサービス一覧情報をパーソナライズサーバ74において集中管理できるという利点と、装置毎に最適化されたサービス一覧情報を配信することができるという利点と、各サービス一覧情報をパーソナライズサーバ74上で新規作成／編集し易いという利点がある。

【0069】

イントラネット73上には、他の画像読取装置71や他の画像形成装置72が存在し、これらの装置においても、画像読取装置1と同様に、パーソナライズサーバ74を用いて、それらの装置で使用するサービスのパーソナライズを行うことが可能である。

【0070】

画像読取装置1が起動されると、図11に示すように、制御部6は、まず、ステップS201において、ICカード9がICカードリーダー／ライタ部8に装着されているか否かをチェックする。ここで、ICカード9が装着されていなければ

ば、制御部 6 は、ステップ S 2 0 2 において、他の処理を行い、そして、処理をステップ S 2 0 1 に戻す。

【0071】

これに対し、ICカード 9 が装着されている場合には、制御部 6 は、ステップ S 2 0 3 において、図 2 で説明した IC カード用の操作画面を表示し、当該操作画面上にユーザによりパスワードが入力されると、入力されたパスワードと、IC カード 9 内に保持されているカードパスワードとの照合を行う。この照合結果、操作者が IC カード 9 の正当な所有者であると確認された場合には、制御部 6 は、ステップ S 2 0 4 において、装置 ID と、IC カード 9 内のカード ID と、操作者により入力されたパスワードとを暗号化してパーソナライズサーバ 7 4 に送信する。パーソナライズサーバ 7 4 では、受信したカード ID とパスワードに基づいて正しい操作者か否かの認証を行い、正しい操作者の場合には、パーソナライズサーバ 7 4 に保持されている、各操作者別のサービス一覧情報 7 5 のうち、受信した装置 ID に対応するサービス一覧情報を、画像読取装置 1 に送信する。

【0072】

制御部 6 は、ステップ S 2 0 5 において、パーソナライズサーバ 7 4 からのサービス一覧情報を受信し、受信したサービス一覧情報に基づいて、第 1 実施形態のステップ S 1 0 4 と同様に、パーソナライズされたサービスの一覧表示を行う。このように、本実施形態では、装置 ID をパーソナライズサーバ 7 4 に送信し、その装置 ID に対応するサービス一覧情報を受信するように構成されている。これは、画像読取機能のみを有する装置において、画像形成系のサービスを受信して表示しても仕方ないので、そのサービスにおいて使用可能なサービスのみを表示した方が使い易いという利点があるためである。

【0073】

次いで、制御部 6 は、ステップ S 2 0 6 において、パーソナライズドサービスが一覧表示されている図 3 または図 4 の画面上での操作者によるサービス選択操作を受け付ける。続いで、制御部 6 は、ステップ S 2 0 7 において、操作者により選択されたサービスのパーソナライズされた項目設定画面（図 6 に示す）を表

示し、必要に応じて、ユーザによる各設定値の変更を受け付ける。そして、制御部 6 は、ステップ S 208 において、操作者による指示が発注指示であるか設定の保存指示であるかを判別する。

【0074】

ここで、操作者の指示が設定の保存指示である場合、制御部 6 は、ステップ S 210 において、保存画面（図示せず）への切り替えを行い、保存指示時における操作部 5 で設定されている各設定値を新規のパーソナライズドサービスとしてサービス一覧情報に新規追加するかまたは操作者指示により既存のものと置き換える。そして、制御部 6 は、処理を上記ステップ S 208 に戻す。これに対し、上記ステップ S 208 において操作者による指示が発注指示であると判別された場合、制御部 6 は、ステップ S 209 において、画像読取部 2 で紙原稿を読み取り、その画像データと、上記ステップ S 207 で指定されたサービスにおける設定された各種設定値とを、インターネット 13 上の指定されたサービスに送信して発注を行う。そして、制御部 6 は、処理を上記ステップ S 201 に戻す。

【0075】

なお、本実施形態では、装置 ID をパーソナライズサーバ 74 に送信し、その装置 ID に対応するサービス一覧情報を受信するように構成しているが、これに代えて、画像読取装置 1 は、装置 ID を送らずに、その操作者が使用可能な全てのサービス一覧情報をパーソナライズサーバ 74 から受信し、自装置で使用可能なサービスを抽出して操作画面に表示するように構成してもよい。この構成の場合、画像読取装置 1 側の処理が複雑になるものの、パーソナライズサーバ 74 側の処理を軽減することができるという利点がある。

【0076】

また、本実施形態では、パーソナライズサーバ 74 が装置 ID および操作者毎のサービス一覧情報を保持し、画像読取装置 1 が個々の装置を識別する装置 ID をパーソナライズサーバ 74 に送信し、その装置 ID に対応するサービス一覧情報を受信するように構成することにより、パーソナライズサーバ 74 により、各装置で使用可能なサービスを細かく管理することができるという利点がある。これに対し、装置 ID の代わりに、装置機種別情報や、機能タイプ情報をパーソナ

ライズサーバ74に送信し、それらに対応するサービス一覧情報を受信するようにしてもよい。この場合、パーソナライズサーバ74は、装置IDおよび操作者毎のサービス一覧情報の代わりに、A社のタイプBのMFPなどという装置機種別で操作者毎に分類されているサービス一覧情報を保持すればよいので、パーソナライズサーバ74における必要な記憶容量を少なくすることができる。さらに、装置IDの代わりに、機能タイプ情報を送信する方式では、白黒スキャン機能、カラススキャン機能、白黒プリント機能、カラープリント機能、FAX機能などの機能タイプ別で操作者毎に分類されているサービス一覧情報を保持すればよいので、必要な記憶容量をさらに少なくできるとともに、パーソナライズサーバ74側で、具体的な装置機種を意識しなくてよいという利点もある。このように、機能タイプ別にサービス一覧情報を保持することにより、例えば、白黒スキャン機能のみを有する装置に対し、カラー情報を扱うサービスを送信することがなくなる。

【0077】

本実施形態では、ICカード9内のカードIDを操作者の識別情報として、パーソナライズサーバ74に送信するが、ICカード9内から操作者の識別情報を取得する代わりに、操作部5を用いて、操作者にユーザIDなどの識別情報を入力させるようにしてもよい。また、指紋認証などのバイオ認証手段により、操作者の識別情報を取得するように構成してもよい。

【0078】

(第4実施形態)

次に、本発明の第4実施形態について図12を参照しながら説明する。図12は本発明の第4実施形態におけるパーソナライズサーバ74に保持されている操作者別サービス一覧情報11の詳細内容を示す図である。

【0079】

本実施形態は、上記第3実施形態に対し、サービス一覧情報の使い方や、サービス一覧情報の内容などのみが異なり、その差違部分のみについて説明する。

【0080】

上記第3実施形態において、サービス一覧情報は、各操作者が自身で利用頻度

が高い設定を保持することを目的として、パーソナライズされているのに対し、本実施形態においては、同じ目的に加えて、各操作者が使用可能なサービスや、各サービスにおいて使用可能な設定項目や設定値を、管理者がパーソナライズサーバ74で集中管理する目的を達成するように構成されている。これにより、画像読取装置1が共有の装置である場合、これを用いて外部のサービスに接続し、サービスの発注に制限を課すことが可能になる。このため、本実施形態の構成においては、図3で説明した汎用サービスはサポートしない。すなわち、ICカード9を装着し、そのICカード9により操作者が特定され、その操作者は、当該操作者向けにパーソナライズサーバ74を用いてパーソナライズされたサービスのみを使用可能な構成としている。

【0081】

また、上記第1～第3実施形態においては、操作者に対し、各サービスに関する各設定項目の設定値を任意に変更することが許可されているが、本実施形態では、各操作者が使用可能な各サービスに関する各設定項目と設定値とを制限する。具体的には、上記第1～第3実施形態においては、各サービスに関する各設定項目の初期値57のみが保持されているが、本実施形態においては、図12に示すように、それに加えて、各サービスに関する各設定項目のうち、その操作者が使用可能な設定値の制限リスト81が保持され、図5に相当する、各サービスに関する各設定項目の変更画面において、制限リスト81の範囲内で、各設定値が選択可能なように構成されている。例えば、図12のパーソナライズされたサービスにおいて、製本機能の設定値としては、安価な、製本なし／片綴じ／中綴じの中のいずれかのみを選択することはできるが、高価なくるみ製本などは選択することはできない。また、配送先という設定項目については、その設定値は自分自身で固定されていて、この設定項目自体を変更することはできないという制限が課されている。一方、例えば、別の操作者であるB部長などに対しては、くるみ製本の選択が許可され、配送先も任意に指示可能にするなどという設定が可能となる。制限リスト81は、管理者のみが操作者毎にパーソナライズ可能で、その制限リストの範囲内で、各操作者は自分の好みに応じたパーソナライズが可能な構成とされている。

【0082】

このように本実施形態では、各操作者が使用可能な設定値のリストをパーソナライズサーバ74に保持するように構成されているが、これに代えて、使用禁止の設定値のリストを保持するようにしてもよい。また、本実施形態では、各操作者が使用禁止されている設定項目については、制限リスト81に『固定』という値を入れることで、使用禁止にしているが、この代わりに、使用禁止されている設定項目自体をサービス一覧情報から削除するようにしてもよいし、また、使用可能な設定項目や、使用禁止されている設定項目を別途保持するようにしてもよい。

【0083】

以上の各実施形態では、インターネット上のサービスに適用した場合を説明したが、本発明の原理をイントラネット上のサービスに対して適用してもよいことはいうまでもない。

【0084】

なお、本発明の目的は、前述した各実施形態の機能を実現するソフトウェアのプログラムコードを記録した記憶媒体（または記録媒体）を、システムあるいは装置に供給し、そのシステムあるいは装置のコンピュータ（またはCPUやMPU）が記憶媒体に格納されたプログラムコードを読み出し実行することによっても、達成されることはいうまでもない。この場合、記憶媒体から読み出されたプログラムコード自体が前述した実施形態の機能を実現することになり、そのプログラムコードを記憶した記憶媒体は本発明を構成することになる。また、コンピュータが読み出したプログラムコードを実行することにより、前述した実施形態の機能が実現されるだけでなく、そのプログラムコードの指示に基づき、コンピュータ上で稼働しているオペレーティングシステム（OS）などが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることはいうまでもない。

【0085】

さらに、記憶媒体から読み出されたプログラムコードが、コンピュータに挿入された機能拡張カードやコンピュータに接続された機能拡張ユニットに備わるメ

メモリに書込まれた後、そのプログラムコードの指示に基づき、その機能拡張カードや機能拡張ユニットに備わるCPUなどが実際の処理の一部または全部を行い、その処理によって前述した実施形態の機能が実現される場合も含まれることはいうまでもない。

【0086】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明によれば、読み取られた画像データをインターネット上のサービスに対して直接送信する際に必要な各種設定に関する操作性を向上させることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の第1実施形態に係る画像読取装置を含む画像読取システムの構成を示すブロック図である。

【図2】

ICカードリーダー/ライタ部8にICカード9が装着された場合に、操作部5内のタッチパネル付き液晶表示部21に表示されるICカード関連の操作画面の一例を示す図である。

【図3】

23456 kadowakiというユーザIDを有する操作者のサービス一覧画面例を示す図である。

【図4】

23457 TanakaというユーザIDを有する操作者のサービス一覧画面例を示す図である。

【図5】

図3のユーザID23456 kadowaki向けサービス一覧画面において、パーソナライズドサービスキー25を押下した場合の操作画面例を示す図である。

【図6】

図1のICカード9内に保存されている操作者別サービス一覧情報11の詳細内容を示す図である。

【図 7】

ICカード9内の操作者情報10の構成を模式的に示す図である。

【図 8】

図1の画像読取装置の制御の手順を示すフローチャートである。

【図 9】

本発明の第2実施形態に係る画像読取装置を含む画像読取システムの構成を示すブロック図である。

【図 10】

本発明の第3実施形態に係る画像読取装置を含む画像読取システムの構成を示すブロック図である。

【図 11】

図10の画像読取装置の制御の手順を示すフローチャートである。

【図 12】

本発明の第4実施形態におけるパーソナライズサーバ74に保持されている操作者別サービス一覧情報11の詳細内容を示す図である。

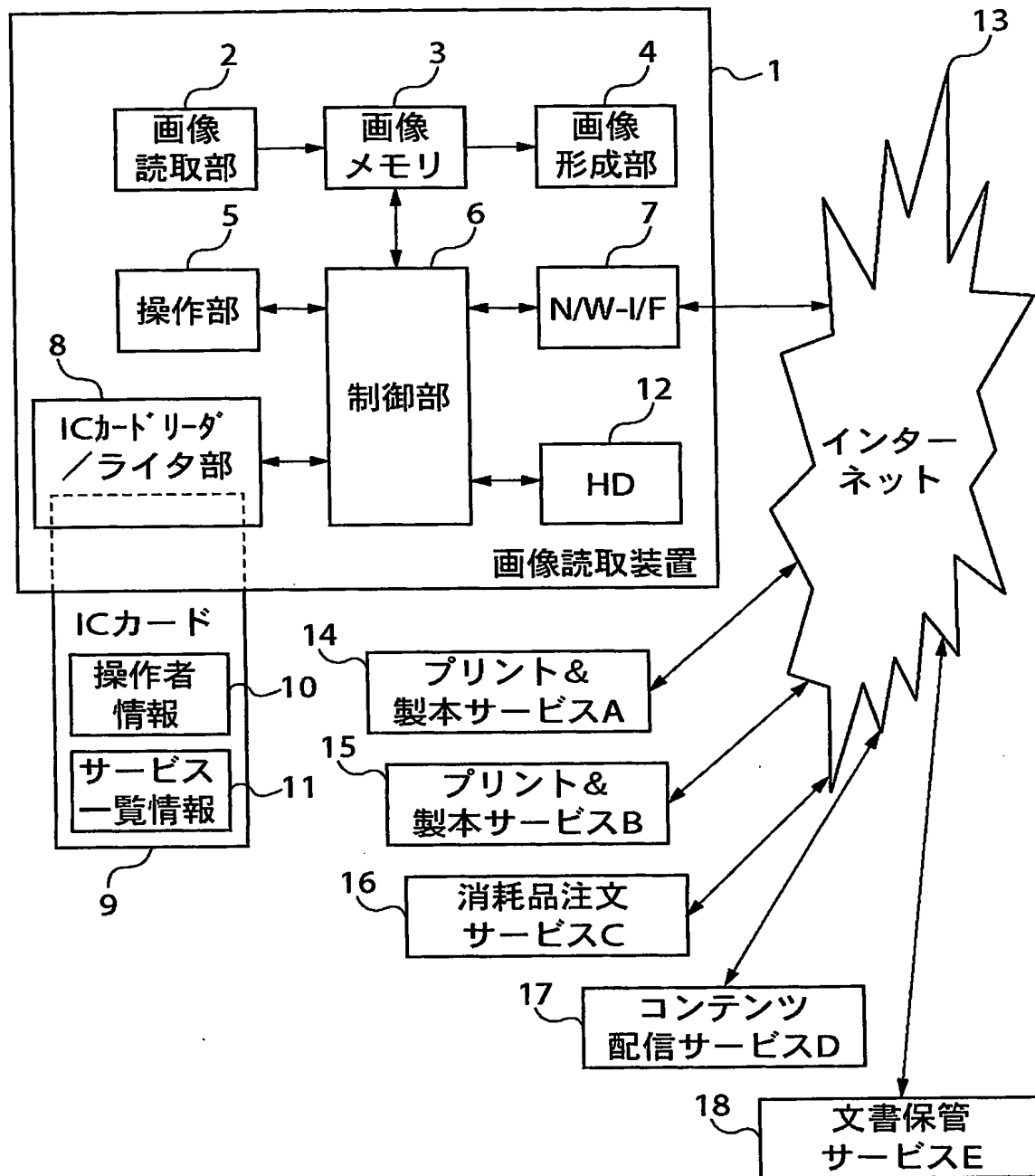
【符号の説明】

- 1 画像読取装置
- 2 画像読取部
- 5 操作部
- 6 制御部
- 7 ネットワーク I/F
- 8 ICカードリーダー/ライター部
- 9 ICカード
- 13 インターネット
- 14 プリント&製本サービスA
- 15 プリント&製本サービスB
- 16 消耗品注文サービス
- 17 コンテンツ配信サービスD
- 18 文書保管サービスE

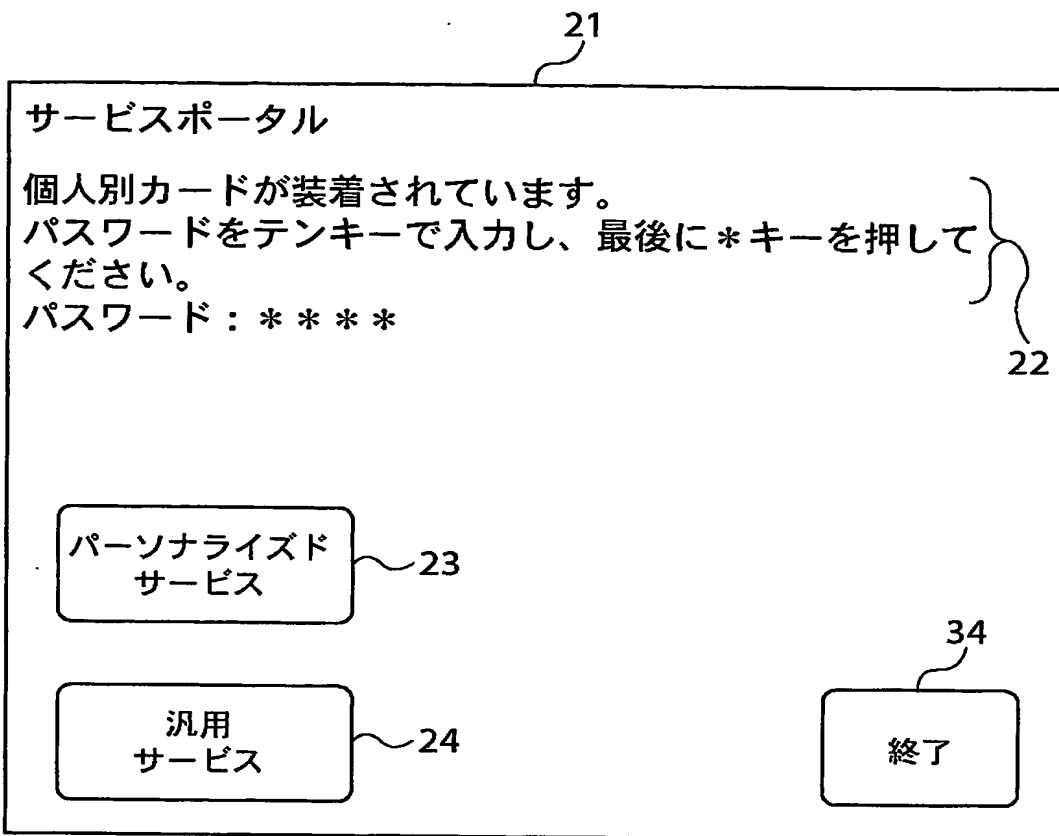
- 6 1 無線方式 I C カードリーダー／ライター部
- 6 2 無線方式 I C カード
- 7 3 イントラネット
- 7 4 パーソナライズサーバ

【書類名】 図面

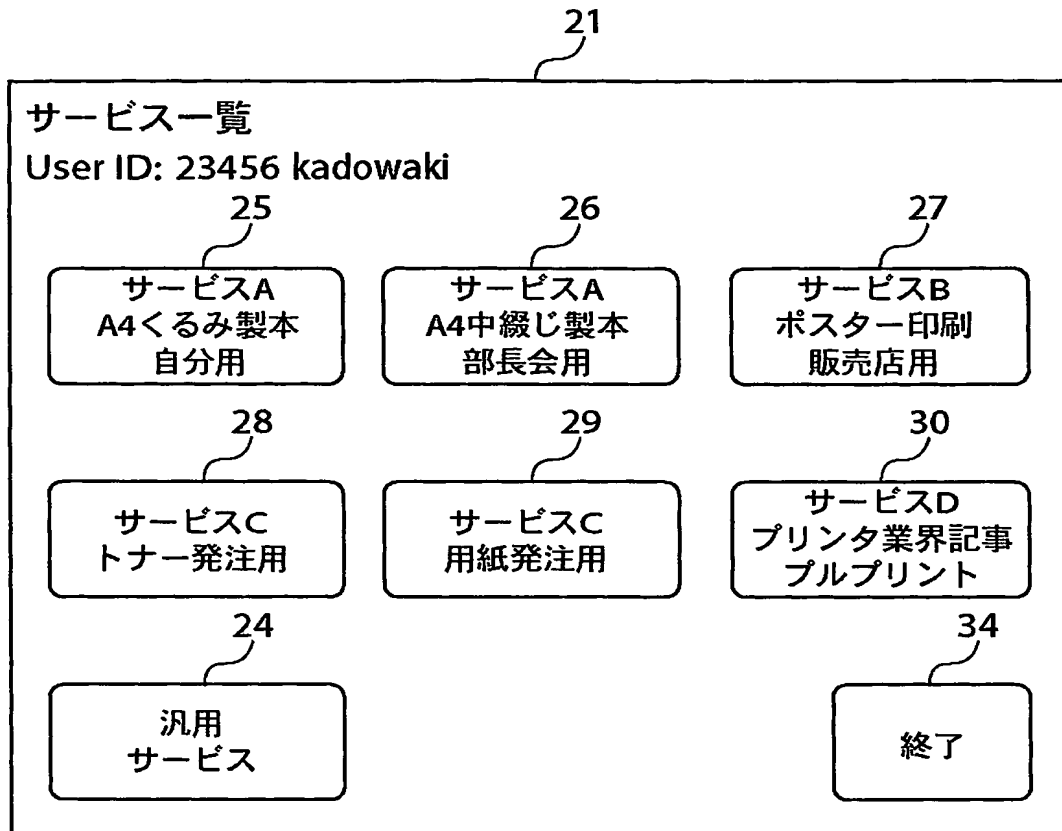
【図1】



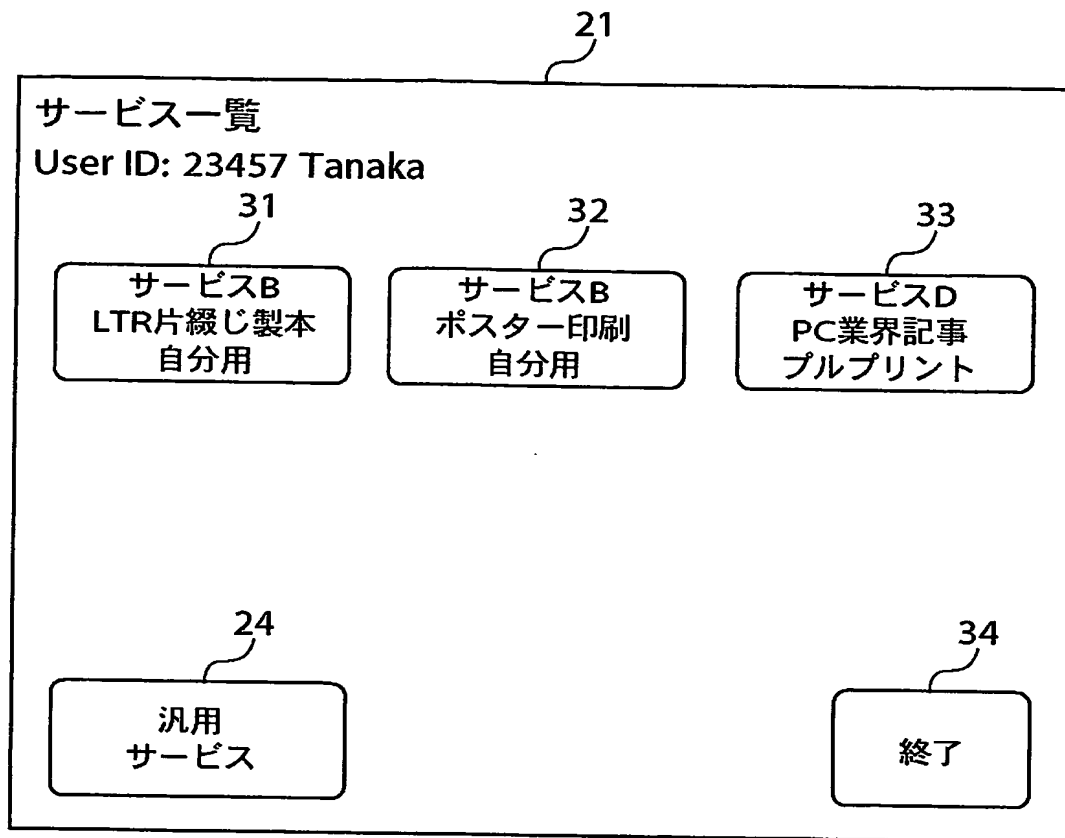
【図 2】



【図3】



【図 4】



【図 5】

21

41

パーソナライズドサービスの名称: サービスA A4くるみ製本 自分用
User ID: 23456 Kadowaki
上下キーで変更項目を選択し、左右キーで値を選択して下さい。
その後、文書をフィーダーに置き、発注してください。

接続サービス	サービスA	▼
仕上げサイズ	A4	▼
部数	1	▼
片面/両面	両面	▼
カラー/白黒	カラー	▼
製本	くるみ製本 (表示は1ページ目のデータを使用)	▼
配送先	A事業所 B棟 C設計課 門脇 TEL9999	▼
費用負担元	課コード 1111	▼
発注者	C設計課 門脇	

43

44

42

45

46

34

設定の保存

発注

終了

【図6】

サービス一覧情報
登録サービス数: 6

55 56

57

52

0	名称	サービスA	A4くるみ製本	自分用
1	接続サービス	サービスA	https://pod-service.net/	
2	仕上げサイズ	A4		
3	部数	1		
4	片面/両面	両面		
5	カラー/白黒	カラー		
6	製本	くるみ製本 (表示は1ページ目のデータを使用)		
96	UID/Password	23456 Kadowaki / xxxx		
97	配送先	A事業所	B棟	C設計課 門脇 TEL9999
98	費用負担元	課コード	1111	
99	発注者	C設計課	門脇	

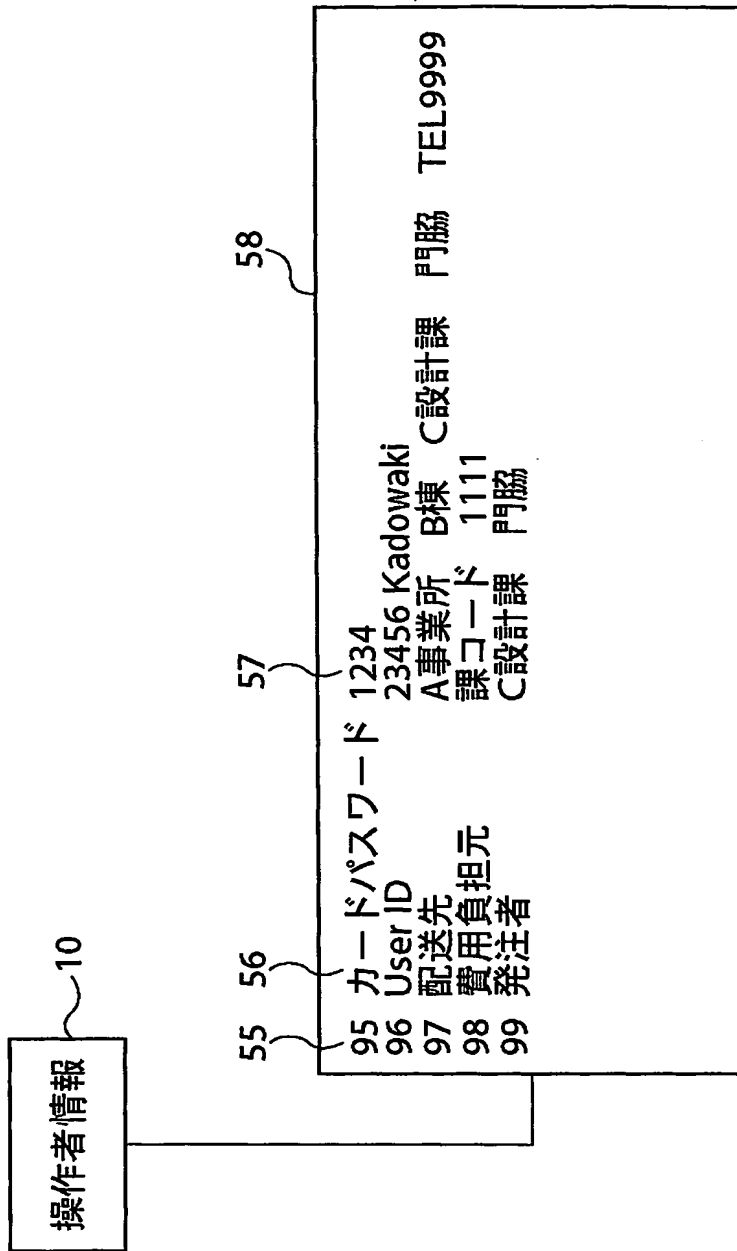
53

0	名称	サービスA	A4中綴じ製本	部長会用
1	接続サービス	サービスA	https://pod-service.net/	
2	仕上げサイズ	A4		
3	部数	4		
4	片面/両面	両面		
5	カラー/白黒	白黒		
6	製本	中綴じ製本		
96	UID/Password	23456 Kadowaki / xxxx		
97	配送先	A部長、B部長、C部長、D部長 各1部		
98	費用負担元	課コード	1112	
99	発注者	C設計課	門脇	

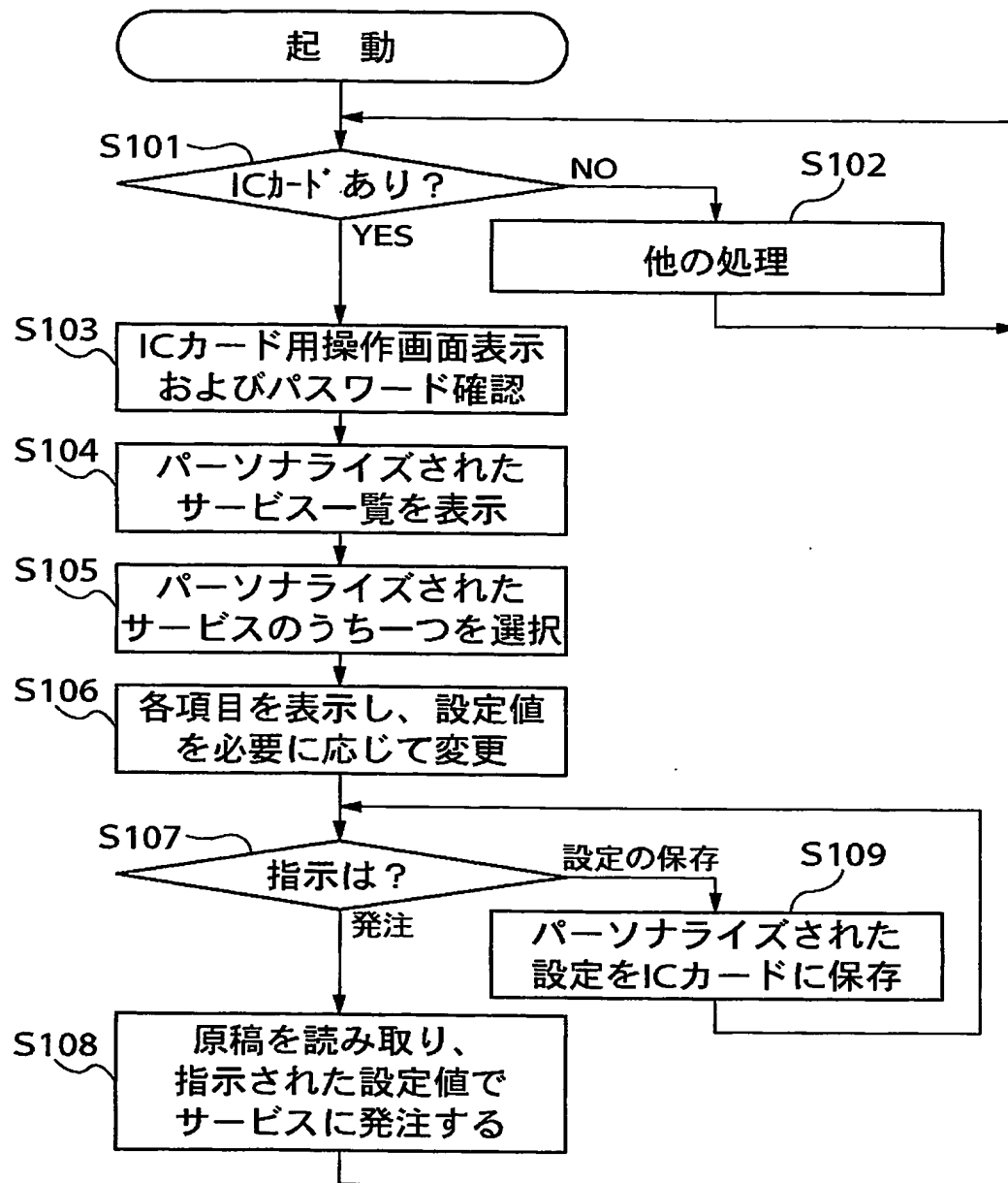
54

0	名称	サービスB	ポスター印刷販売店用
1	接続サービス	サービスB	https://printservice.com/poster
2	仕上げサイズ	A1	
3	部数	4	
5	カラー/白黒	カラー	
8	仕上げ	ラミネート加工	
96	UID/Password	23456789 / yyyyy	
97	配送先	A販売店2部、B販売店1部、C販売店1部	
98	費用負担元	課コード	1111
99	発注者	C設計課	門脇

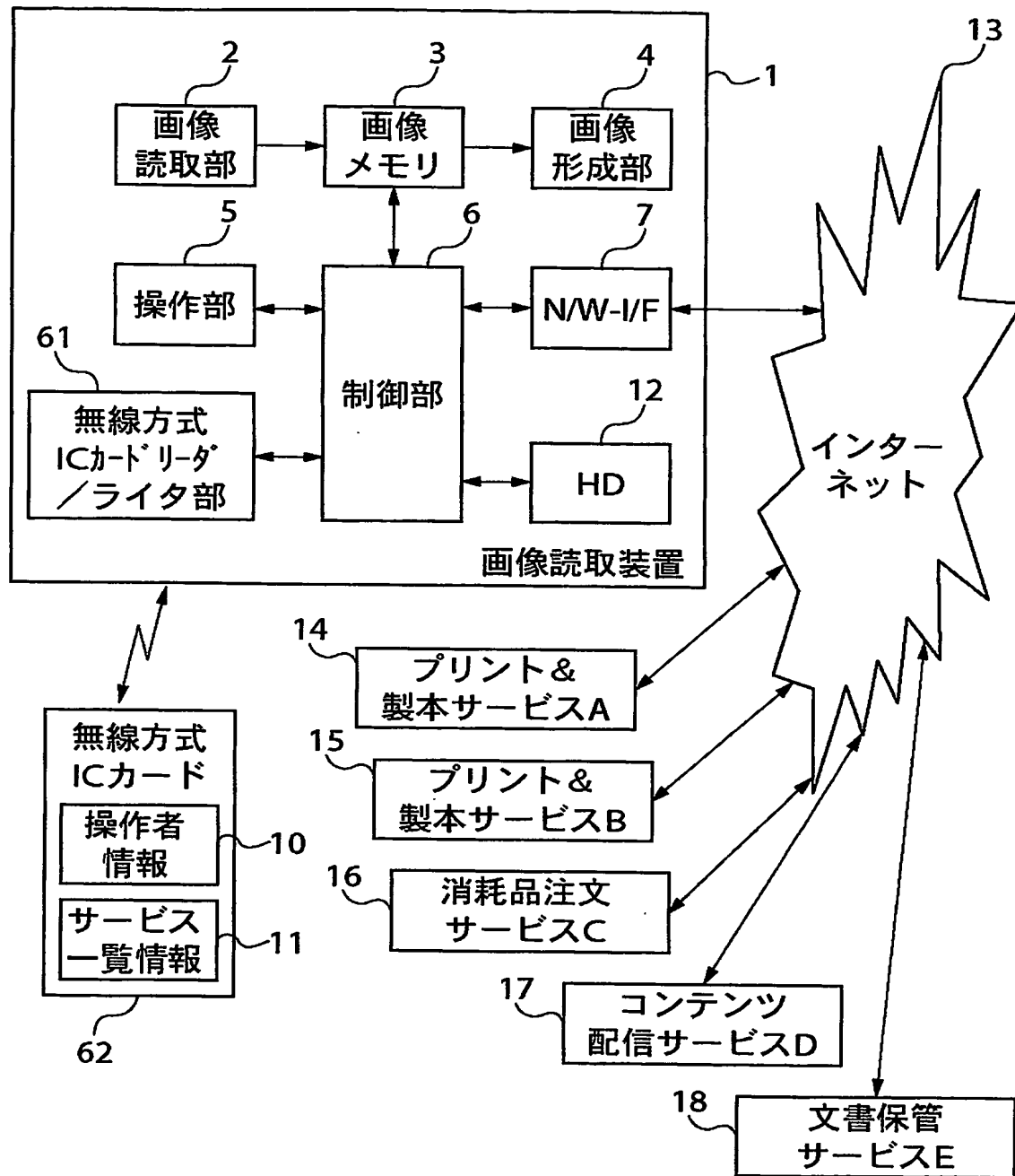
【図 7】



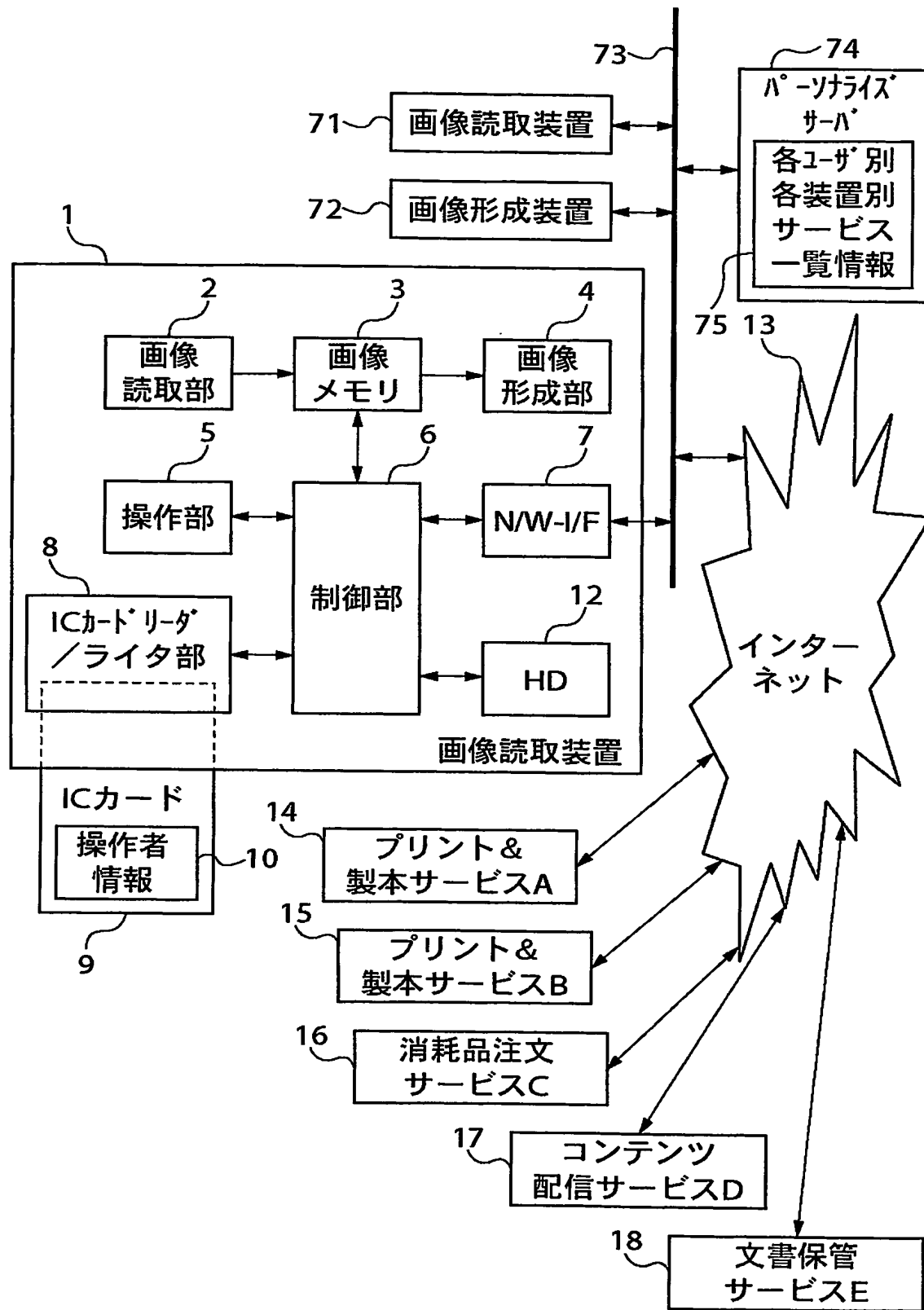
【図 8】



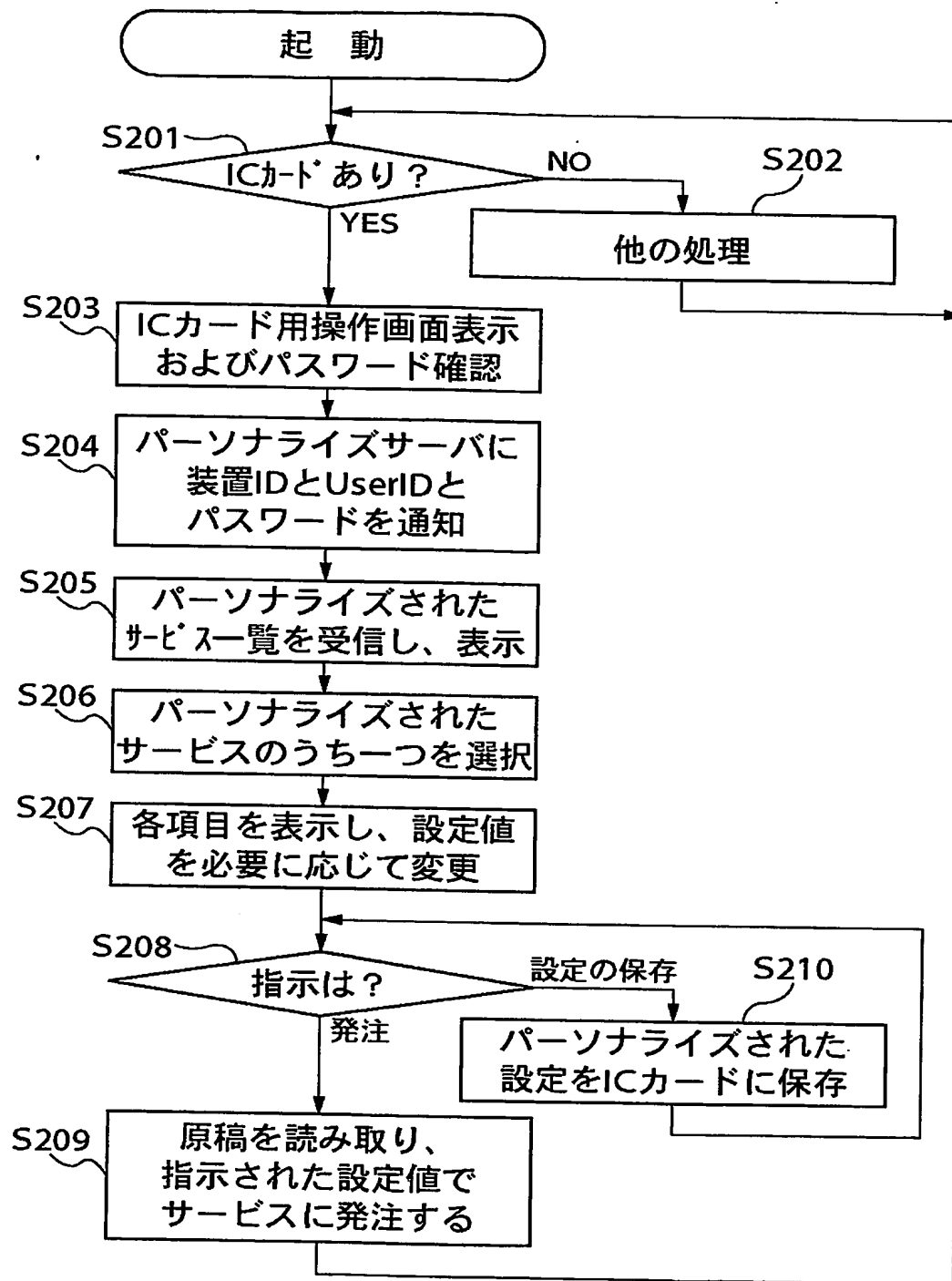
【図 9】



【図10】



【図 11】



【図 12】

55	56	57	81	82
0 名称	サービスA	A4くるみ製本 自分用	固定	
1 接続サービス	サービスA	https://pod-service.net/	A4/A3/B4/B5	
2 仕上げサイズ	A4		1-99	
3 部数	1		片面/両面	
4 片面/両面	両面		白黒	
5 カラー/白黒	白黒		なし/片綴じ/中綴じ	
6 製本	片綴じ			
97 配送先	A事業所	B棟 C設計課 門脇 TEL9999	固定	
98 費用負担元	課コード	1111	固定	
99 発注者	C設計課	門脇	固定	
93 ログインID	0123456		固定	
94 パスワード	VXWYZ		固定	

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 読み取られた画像データをインターネット上のサービスに対して直接送信する際に必要な各種設定に関する操作性を向上させることができる画像読取装置を提供する。

【解決手段】 画像読取装置 1 は、インターネット 1 3 上の複数の外部サービス 1 4 ～ 1 8 のうち、操作者が利用するサービスをパーソナライズするためのパーソナライズドサービス一覧情報を IC カード 9 から取得し、取得されたサービス一覧情報に基づいて操作者向けに設定画面、設定手順、設定内容をパーソナライズし、インターネット 1 3 を介して、操作者向けにパーソナライズされた各種設定を画像データとともに送信する。

【選択図】 図 1

特願 2003-102156

ページ: 1/E

出願人履歴情報

識別番号

[000001007]

1. 変更年月日

1990年 8月30日

[変更理由]

新規登録

住所

東京都大田区下丸子3丁目30番2号

氏名

キャノン株式会社